

サンフランシスコでの生活

保川有梨

皆さまこんにちは。グローバル補助金奨学生 of 保川有梨です。皆さまと夏にお会いしてから早くも2ヶ月半が経ちました。現在は米国のサンフランシスコに来ております。8月下旬より大学院のクラスが始まり、スタートと同時に目まぐるしい毎日です。授業では、米国、インド、中国、韓国、ロシア、トルコなど、各国からの学生と意見交換をしながら、共に学び合える機会に感謝する日です。

インタラクションデザインの授業では、デザインに関するReadingの課題と並行しながら、実際にデザインを作り上げたり、実在するデザインを分析したり、改善したりする過程を通して徹底してスキルを磨いていきます。例えばIxD Formという授業では、「存在するウェブサイトの一つを取り上げ、改善策を考えて作り直す」という課題が出されました。私は、サンフランシスコで大きな問題となっている、食料品の物価に伴うFood Bankのウェブサイトの改善を検討し、提案しました。ウェブサイトの改善は、見た目をどのように改善するかという視点だけではなく、ユーザーの動きやニーズ、行動を検討します。食料を探す世帯や、ボランティアを希望する人たちがウェブサイトに期待することは何か、不足しているものはないか、情報過多になっていないか、画像は適切か、など検討項目を整理し、ユーザーに実際にインタビューを行うこともあります。

こういった学びの機会を通して一番に感じたのは、デザインは「予想」に基づいた設計ではなく、「実体験」に応じた設計であるべきだということです。実際に目にすることができないユーザーの動向を予想することは簡単ですが、いかに事実を集めて証拠に基づいたデザインにするか、という視点が世の中の人に役立つデザインを作る

一番の近道であり、デザイナーとしての在り方の重要な部分だと感じています。

授業内でのプレゼンテーションでは多くの質問が飛び交います。他学生や教授から様々な視点での意見やアドバイスをもらったり、また彼らの発表の中でヒントを見つけたりすることができるのは、集団で学ぶ大きな意義だと感じています。課題の量や期待に答えるという部分では、大変なこともあります。着実に実社会で貢献できるスキルを獲得できていると実感しています。

サンフランシスコでは、様々なイベントが隔週開かれています。9月には、Presideoという地区で韓国のThanks Givingのイベントが開かれました。コロナの影響で3年ぶりに開催されたこのイベントには、2万人もの人が訪れ、私はGreeterのLeadとしてボランティア活動に参加しました。地域の方々との交流やボランティアの仲間と交流することができたのは大きな財産となりました。



(写真：Chuseok Festival、ボランティア仲間と。)

10月にはSan Francisco Rotary Clubにご招待いただき、例会に参加しました。例会では、消防署と連携して消火訓練の授業を行っている高校生による活動報告や、ゲストスピーチ、また今後のイベントの告知などが行われました。30数名ほどのロータリアンの皆さまと他クラブやゲストによる例会の終わりには、市原ロータリーのバナーをお渡しし、大変喜んでいただきました。海外という地で、皆さまに暖かく迎え入れていただいたこ

と、普段では出会うことのできない方々と繋がりをもつことができたことは大変有り難く、ロータリー奨学生として受け入れてくださった皆さまに感謝でいっぱいです。また、渡米当初からお世話になっているSFロータリーのDanさんには、常にメンターのような存在で気にかけていただいております、こういった面からも学業に集中することができています。



(写真：SFロータリー例会。左：Danさん、右：Christopherさん)

これからも、引き続きロータリーをはじめ、現地の方々との交流を通して学びを深めながら、学業面でも成長して参りたいと思っております。